

(学校運営協議会・報告様式)

令和6年度 第 3 回 鈴鹿市立庄内小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和 6 年 8 月 1 日 (木) 13:30～15:00

2 場 所 庄内小学校家庭科室

3 あいさつ

(学校長)

- ・ 様々な課題に2学期以降取り組んでいくために話し合っていきましょう

(委員長)

- ・ いろいろ意見交流をしていきたいと思います。

4 協議内容

(1) 自己紹介

- ・ 各委員より
- ・ 教員より

(2) グループ懇談

A グループ

(児童の様子)

- ・ 学習では、見て学ぶ、自分で操作する、可視化するということを大切にしている。
- ・ 入学前からひらがなの習得については意欲的な子どもが多い。カタカナの習熟度が低い。
- ・ 漢字に対するモチベーションがまちまち。モチベーション高い子もいればあきらめている子もいる。とめ・はね・はらいまで意識して書く子も多い。
- ・ めあてとふりかえりの時間を大切にしている。
- ・ ノート指導に力を入れてきた。定規を使ってまっすぐ線を引けるようになってきた。
乱雑な字・消しゴムで消さない・二重書きが課題。
- ・ 読書の様子…1字読みの子が多い。先生が読んだ本には興味をもつ。
起承転結がはっきりしている本が好まれやすい。
- ・ 話を聞く態度については2学期以降も粘り強く指導していく。
- ・ 苦手な学習に対する支援をどうしていくか。
- ・ 協働的な学びに引き続き取り組んでいく。
- ・ 勉強をしたけれども点数に結びつかなかった…勉強の仕方を伝授。
- ・ 算数については、前学年までの学習はおおむね身についている。コンパス等道具を使うという手先を動かすことについては未知数なところがある。
- ・ ICTも授業の中で活用している。
- ・ ネットゲームが流行った時には子どもたちの様子にも変化があった。大人の知らないところでゲームをしている。
- ・ SNSの与える影響が大きい。(子どもの価値観・判断基準)

(委員より)

- ・ 先生の子どもたちを引き付ける工夫がよくわかった。
- ・ 参観時に姿勢が悪い子がいることが気になった。
- ・ 漢字の学習…ICTを用いて工夫をしていくことも大事

- ・ 漢字の再テスト…根気強くしていく
- ・ 読書と漢字テストの関係性…自分のペースで本をめくって読むということが大切
- ・ 家庭でも「読む」習慣をつけていけるとよい。→文章を書くことにもつながっていく。
- ・ 世の中の的にもスマホに対する抵抗感は少ない。小さい頃からスマホに触れている経験。親が子どもをあやす道具として使用しているような現状がある。
- ・ 人間関係の固定化…お互いのことをよく知っているからこそ受け入れてくれる面もあるが、関係が崩しにくい。中学校になると、交友関係が広がっていく。新しい世界を知っていく。小さい頃から新しい仲間を受け入れる経験をしていった方がよいのではないか。

B グループ

(児童の様子)

- ・ 語彙の量が少ない。つねに辞書を手元において、わからないことは、自分で調べる習慣をつける。
- ・ 漢字ノートの指導は、「濃く丁寧に」をモットーに取り組んでいる。
- ・ 非認知能力の取り組みを行った。授業後アンケートでは（自分に良いところがある）という項目結果が上がった。
- ・ ソーシャルスキルトレーニング(アイテムマスター)を取り入れている。できたら名前を貼る。自分たちのオリジナルのアイテムマスターを作成した。1学期末には、できたかどうかの振り返りを行った。
- ・ 人数が少なくても、人間関係でうまくいかないことはある。いっしょに活動する機会をたくさん持ちたい。
- ・ 人数が少ないので中学校に行ったときに、全体場で意見が言いにくくならないか心配である。自分の意見や気持ちを表現する練習をしていっている。
- ・ 人権集会では、苦手なことをお互いに知らない現状を振り返り、端末に書き込んで発表を行った。
- ・ 1学期の市民センター訪問は良い経験になった。
- ・ 保健室には、1か月に100人くらい来室。去年は380人来室があった。自己表現をするのが苦手な子が多い。学年、名前、なぜ来たのかを言わせるようにしている。掲示物の工夫。9月は手洗いの掲示物を予定している。

(委員より)

- ・ 市民センター側も、訪問時に子どもたちの意見を聞くことができてよかった。
- ・ けがマップのシールの位置が気になった。→けがした場所に貼っているわけでない。来年からけがをした位置に貼るようにしていきたい。学年を越えて遊ぶ姿がある。

学校運営協議会のことをどう捉えているか

- ・ 地域との関わりが希薄化している気がする。子どもたちが見て聞いて学んだことが庄内地域の未来に繋がる。行事を通して年代を超えて地域をつくってきた。子どもたちからすごくパワーをもらえるので、もっともっと地域が参加できるとよい。
- ・ こういう交流する機会は貴重であるので続けていきたい。
- ・ 1学期の短い期間にたくさん先生方の取り組みが知れてよかった。地域の人にもっと先生たちのこういった取り組みや頑張りを知ってほしい。

(3) 意見交流

- ・ 各グループで話された内容の発表

(感想)

- ・ 日程的な部分で、委員の参加が少なくなってしまう、残念だった。
- ・ 地域として、できることをやっていきたい。

5 コミュニティ・スクール推進コーディネーターより

平日午後の開催で、仕事の関係もあり、運営委員の参加が少なく、寂しかった。

開催の仕方を含め、どうすれば **win-win** になるか、検討が必要だ。

学校運営協議会は、それぞれの立場で子どものことを話す貴重な機会である。

子どものために、先生はどういうことを考えているのか。また、先生たちは、学校運営協議会がどんな話をしているのか知る。

委員は、それを受けて、地域ができること、動けることを整理して考える。

今回は、子どもたちの日常、ゲーム、読書、人間関係など出し合えたことは成果なので、今後に生かせるよう、それぞれの立場で取り組んでいってほしい。

6 次回日程の確認

第4回 11月26日（火）15：30～

「令和6年度鈴峰中学校区学校運営協議会拡大協議会」

於：鈴峰中学校 体育館